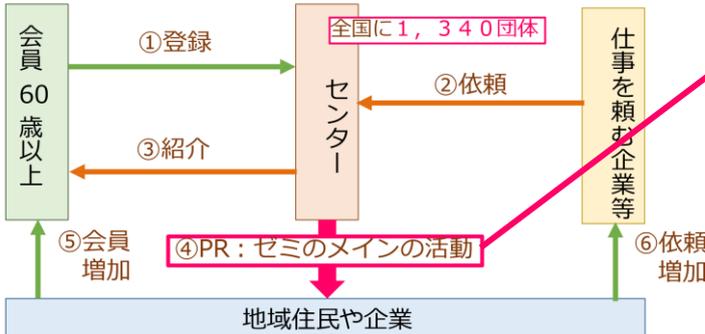


豊山ゼミ2024年度成果報告

1 シルバー人材センターとゼミの活動



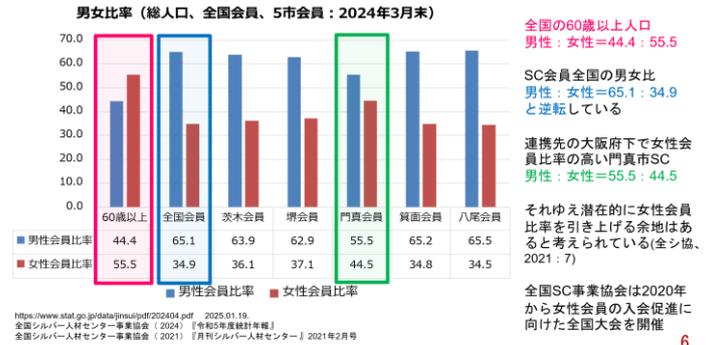
- ゼミ生がSCの現状・課題を知る必要がある
- 課題に対する対応を知る必要がある
- 情報を各SCで共有する機会を作る必要がある

2 SCの課題 会員数の減少

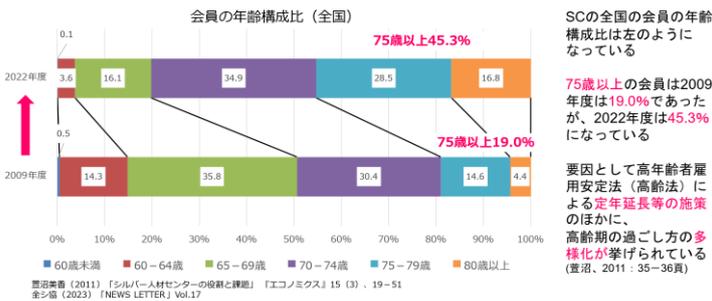


SCの全国の会員数は2023年度（2024年3月31日現在）で676,756人
10年前の2013年度（2014年3月31日現在）と比べて52,450人の減少
トレンドとしては一貫して減少
とくにコロナ禍での会員減少の影響を克服できていない

2 SCの課題 (続き) 女性会員の少なさ



2 SCの課題 (続き2) 会員の高齢化



○門真市SC「スプリングカーニバル」

飲食12ブース、物販・啓発28ブース、小ステージ6イベント、大ステージ12イベントと多方面にわたり、老若男女を問わず多くの人が参加
門真市SCは門真市の伝統野菜である「門真れんこん」も染農園事業で栽培しており、それを女性活躍委員会のメンバーが天ぷらにして販売
門真市民は門真市SCの活動を目にする機会が多い

2) 課題への対応 (続き2)

【女性会員の少なさへの対応】

○府下5市SCの女性会員交流会

女性会員はそれぞれのSCでは少数派で、さらに女性会員を増加させようと頑張っている女性会員はもっと少数。いろいろ試みるが女性会員が増えずに悩んでいる
そこで悩んでいる会員同士で交流し個人的に知り合いになれば、困ったときに相談できるのではないかと考え女性会員交流会を企画

女性会員交流会は今年度で3回目、毎回改善

- 1回目主催 門真市SC アクティビティを中心に置き、情報交換の機会を設けられなかった
- 2回目主催 堺市SC グループワークを設定したが、事前情報がなく議論深まらず
- 3回目主催 八尾市SC ゼミ生が各センターを取材し、事前情報を与えたらうでグループワーク



2) 課題への対応 (続き5)

【会員の高齢化への対応】

○堺市SC「マスコット人形づくりのニッター（編み物専門職）養成講座」

会員の高齢化は、屋外作業等の身体に負担のかかる仕事に従事する会員を減少させる身体に強い負担がかからず、かつ自分のペースでできる仕事を開拓する必要がある
堺市SCはベビー用品のブランド企業から赤ちゃん用ぬいぐるみ制作の内職仕事の依頼を受けた堺・美原分室でのニッター養成講座（2024年6月11日）についてFW報告



SCにとって新しい系統の仕事。売り物として完成した人形は出来高制の収入。ノルマはなく、自宅で手の空いた時間にできる
高齢者の会員にとっても仕事しやすい仕事 (シルバーせかい 149)

◆「SCを楽しもう」企画

○目的

ゼミ生が実際にセンターを活用することを実感する
センターの会員さんがどんな活動をしているのか知る
センターを通じて教わった知識を今後活かす



センターが伝えたいことをゼミ生自身が学び、
今後のシルバー人材センターのPRに活かす

○姫路市SC 姫路城観光ガイド利用 (2024年12月17日)



姫路城の入場口の横にはSC観光案内の詰所がある

観光ガイドは常識的なことや基本的なことはSC観光ガイドの先輩から学ぶ
その他の内容については会員が個々に調べてストーリーを作る
たとえばシャチホコの性別の見分け方など
詳細なノートを作成していた
写真のガイドは「姫路城が一番の城」だと思っており、その良さを伝えることに熱い思いをもって



4 ゼミで学んだこと

○ゼミ生で出し合った

【プレゼン関係】

- ・PPTでの写真拡大の方法 (トリミング等) ・発表では具体的に語る ・発表は感想よりも事実を挙げた方が説得力は増す
- ・発表の際は漢字等の読み方、言葉の意味等について準備する (粗 (?) 入会率)
- ・プレゼンは聞き手のことを考えて準備する、報告する ・プレゼン資料を作るとき、「なぜこんなことをしているのか」を念頭において関連づける ・わからない言葉等がでてきたら、それを自分で調べ、資料に反映させる
- ・自分で説明できないことはしゃべらない ・文章の書き方 (頭とおしりをそろえる) ・PPTでの文字数は少なくし、一目で見て何が言いたいのか、わかるようにする ・写真をコピーする際は、マナバから一度ダウンロードしてからコピー (画質を落とさない)

【ヒアリング関係】

- ・メモの重要性 ・メモに書いた内容は早めに発表する ・メモは、現場では素早く取って早いうちに読み返し、読めそうもない字にはフリガナ等を打つ ・ヒアリングをまとめる際のプライバシーへの配慮 ・プレゼンで質問等、やりとりをする ・集まっただけでは交流は生まれにくい、仕掛けないといけない ・ヒアリング、見学時には「意図をもって」写真を撮る ・ヒアリング、見学の写真はアップ等によって表情がわかるようにする ・ヒアリング、見学時には学生が写真に入るようにする ・自分から行動しないと情報は得られない (参加者等に積極的に話しかける) ・文章をまとめる際は、ワードの見出し機能を使う

【その他】

- ・SCはより若い、60代の高齢者が会員にならないという問題がある ・互助会でお金を稼ぐことの重要性 ・会員を集めるための工夫 (ノルディックウォーキングなど) ・体験の重要性 (体験した人でないと伝えられないことを言う) ・人が集まるように「楽しい」企画を考える ・フェスティバル等ではテントの配置などを工夫する

「ヒアリング、見学時には「意図をもって」写真を撮る」について解説